【　復活のトロパリ　第７調　】



【　日本の亞使徒聖ニコライのトロパリ　第４調　】





【　日本の亞使徒聖ニコライのコンダク　第 4 調　】




みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩寵與教會建
たり、いまこのきょうかいのためにいのり
今此教會爲祈
たまえ、けだしわれらそのしょしはなん
給蓋我等其諸子爾
ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
呼我善牧者慶
べよ。

【　復活のコンダク　第７調　】

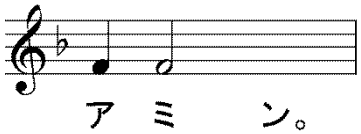

いまもいつもよよに、アミン。
今何時世世
しのけんはすでにひとびとをとらうるあた
死權已人人捕能
わず、けだしハリストスはくだりてそのち
蓋降力
からをやぶりてほろぼしたまえり。ぢご
敗滅給地獄
くはしばられ、よげんしゃはどうしんによろ
縛預言者同心喜
こびてよぶ、きゅうせいしゅはしんにおる
呼救世主信居



司祭)（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 ）

司祭) **蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世**

に、



【 聖三祝文 】





司祭)（　黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、　）

【　提綱　主日第７調　】

司祭)　愼みて聽くべし、衆人に平安、

誦經）爾の神にも、

司祭）睿智、

誦經）プロキメン、第七の調、主は其民に力を賜い、主は其民に平安の福を降さん、



誦經）神の諸子よ、主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ、



誦經）主は其民に力を賜い、



【 使徒經（アポストロス） 221端 エフェス書2章14節～22節 】

司祭）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがエフェス人に達する書の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、ハリストスは我等の和平なり、二の者を一と爲し、隔の墻を毀ち、己の身を以て仇を廢し、教を以て諸誡の律法を廢せり、是れ和平を爲して、二の者を以て、己に於て、一の新なる人を造り、又十字架にて仇を殺し、此を以て、一の身に於て、二の者を神と復和せしめん爲なり。且來りて、爾等遠き者及び近き者に和平を福音せり、蓋彼に由りて、我等二の者は、一の神に在りて、父に近づくを得るなり。故に爾等既に異民、或は他邦の人たらず、乃諸聖徒の同邦の人、神の家屬なり、爾等は諸使徒と諸預言者との基に建てられたり、イイスス・ハリストスは自ら其隅石なり。此の上に全屋は組み立てられ、次第に築きて、主に於ける聖殿と爲る、此の上に爾等も、神に由りて、神の居處として、共に建てらるるなり。

＊＊

（比較用　口語訳）キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それは、彼にあって、二つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。それから彼は、こられた上で、遠く離れているあなたがたに平和を宣べ伝え、また近くにいる者たちにも平和を宣べ伝えられたのである。というのは、彼によって、わたしたち両方の者が一つの御霊の中にあって、父のみもとに近づくことができるからである。そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し、そしてあなたがたも、主にあって共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。

＊＊

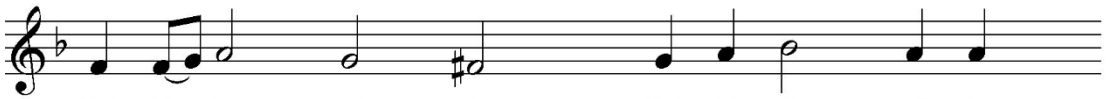
【　アリルイヤ　主日第７調　】

司祭）爾に平安、

誦經）爾の神にも、

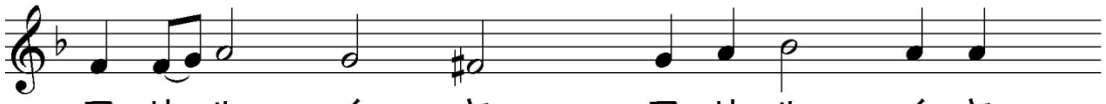
司祭）睿智、

誦經）アリルイヤ、



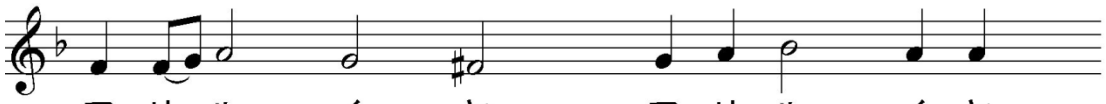


誦經) 至上者(しじょうしゃ)よ、主(しゅ)を讃榮(さんえい)し、爾(なんぢ)の名に歌(うた)うは美(び)なる哉(かな)、





誦經) 爾(なんぢ)の憐(あわれみ)を朝(あさ)に宣(の)べ、爾(なんぢ)の眞(まこと)を夜(よ)に宣(の)ぶるは美(び)なる哉(かな)、

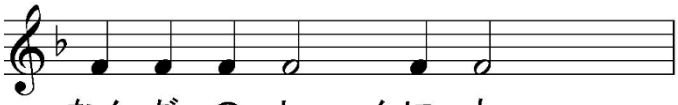




司祭) (默誦 : 人(ひと)を愛(あい)する主宰(しゅさい)よ、我(わ)が心(こころ)に神(かみ)を知(し)る智慧(ちえ)の淨(いさぎよ)き光(ひかり)を輝(かがや)かし、我(わ)が思念(ねんめ)の目を啓(ひら)きて、爾(なんぢ)が福音(ふくいん)の教(おしえ)を悟(さと)らしめ給(たま)え、我(わ)が衷(うち)に爾(なんぢ)の福(ふく)たる誡(いましめ)を畏(おそ)るる畏(おそれ)をも入(い)れて、我等(われら)が悉(ことごと)くの肉體(にくたい)の慾(よく)を踏(ふ)み、凡(およ)そ爾(なんぢ)の喜(よろこ)ぶ所(ところ)を思(おも)い且(か)つ行(おこな)いて、屬(ぞくしん)神の生活(せいかつ)を過(す)ぐるを致(いた)させ給(たま)え、蓋(けだし)ハリストス神(かみ)よ、爾(なんぢ)は我(わ)が靈(たましい)と體(からだ)との光照(こうしょう)なり、我等(われらなんぢ)爾(なんぢ)と爾(なんぢ)の無原(むげん)の父と至聖(ちせいし)至善(ぜん)にして生命(いのち)を施(ほどこ)す爾(なんぢ)の神(しん)とに光榮(こうえい)を獻(けん)ず、今(いま)も何時(いつ)も世世(よよ)に、アミン。)

【 福音經(エヴァンゲリオン) ルカ福音書 38 端 8 章 26～39 節 】

司祭) 睿智(えいち)、肅(つつし)みて立(た)て聖福音經(せいふくいんけいき)を聽くべし、衆人(しゅうじん)に平安(へいあん)、



司祭）ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭）謹みて聽くべし、彼の時イイスス　ガリレヤに對えるガダラの地に來りて、彼が岸に登りし時、邑の一人の者彼を迎えたり、乃　久しく魔鬼に憑られ、衣を衣ず、家に住まずして、墓に住める者なり。此の人イイススを見て號び、彼の前に俯伏し、大なる聲を以て曰えり、至上なる神の子イイススよ、我と爾と何ぞ與らん、爾に求む、我を苦しむる勿れ。蓋イイススは汚鬼に此の人より出づるを命じたり、其彼を拘えしこと久しければなり。彼を守りて、鐵索と桎梏とに繋ぎたれども、彼　繋を斷ちて、魔鬼の爲に野に逐われたり。イイスス彼に問いて曰えり、爾の名は何ぞ、彼曰えり、大隊、多くの魔鬼彼に入りたればなり。魔鬼はイイススに、彼等に淵に往くを命ぜざらんことを求めたり。彼處に豕の大群の山に牧われたるあり、魔鬼は彼に、其中に入るを許さんことを求めたれば彼之を許せり。魔鬼人より出でて、豕に入りしに、群は山坡より　湖　に逸けて溺れたり。牧う者有りし事を觀て、奔り往きて、邑及び諸村に告げたれば、人人有りし所を觀ん爲に出で、イイススに來りて、魔鬼の出でたる人が衣を着、心　慥にして、イイススの足下に坐せるを見て、懼れたり。見し者は魔鬼に憑られたる人の如何に愈されしを告げたれば、ガダラ地方の民は、皆イイススに彼等を離れんことを請えり、大に懼れし故なり。彼舟に登りて返れり。魔鬼の出でたる人は彼と偕に居らんことを求めたれども、イイスス之を去らしめて曰えり。爾の家に歸りて、神が如何なる事を行いしを告げよ。彼往きて、全邑にイイススが彼に如何なる事を行いしを宣べたり。

＊＊

（比較用　口語訳）彼らはガリラヤの対岸、ゲラサ人の地に渡った。陸にあがられると、その町の人で、悪霊につかれて長いあいだ着物も着ず、家に居つかないで墓場にばかりいた人に、出会われた。この人

がイエスを見て叫び出し、みまえにひれ伏して大声で言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。お願いです、わたしを苦しめないでください」。それは、イエスが汚れた霊に、その人から出て行け、とお命じになったからである。というのは、悪霊が何度も彼をひき捕えたので、彼は鎖と足かせとでつながれて看視されていたが、それを断ち切っては悪霊によって荒野へ追いやられていたのである。イエスは彼に「なんという名前か」とお尋ねになると、「レギオンと言います」と答えた。彼の中にたくさんの悪霊がはいり込んでいたからである。悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようにと、イエスに願いつづけた。ところが、そこの山べにおびただしい豚の群れが飼ってあったので、その豚の中へはいることを許していただきたいと、悪霊どもが願い出た。イエスはそれをお許しになった。そこで悪霊どもは、その人から出て豚の中へはいり込んだ。するとその群れは、がけから湖へなだれを打って駆け下り、おぼれ死んでしまった。飼う者たちは、この出来事を見て逃げ出して、町や村里にふれまわった。人々はこの出来事を見に出てきた。そして、イエスのところにきて、悪霊を追い出してもらった人が着物を着て、正気になってイエスの足もとにすわっているのを見て、恐れた。それを見た人たちは、この悪霊につかれていた者が救われた次第を、彼らに語り聞かせた。それから、ゲラサの地方の民衆はこぞって、自分たちの所から立ち去ってくださるようにとイエスに頼んだ。彼らが非常な恐怖に襲われていたからである。そこで、イエスは舟に乗って帰りかけられた。悪霊を追い出してもらった人は、お供をしたいと、しきりに願ったが、イエスはこう言って彼をお帰しになった。「家へ帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったか、語り聞かせなさい」。そこで彼は立ち去って、自分にイエスがして下さったことを、ことごとく町中に言いひろめた。

＊＊



※聖体礼儀３（金口イォアン）へ